和白干潟通信
愛して、わじろ

No.146

２０２３年7月１１日
発行: 和白干潟を守る会

〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

和白干潟の自然観察会（生きもの観察～沖にクロツラヘラサギがいるよ～）

★ご案内★

★ 和白干潟の生きものやハマボウを見る会 ★

夏の和白干潟にはカニや生きものがいっぱい！唐原川河口から黄色いハマボウの花が咲いている牧ノ鼻までの浜辺を、歩きながら観察しましょう。牧ノ鼻海岸では岩場の生きものにも会えますよ！牧ノ鼻はハマボウの大群落地になっており、7月には黄色い美しい花がたくさん咲きます。毎年見守ってきました。和白干潟は「にほんの里１００選」に選ばれ、環境省の「国指定鳥獣保護区」で「ラムサール条約」の登録候補地です。生きものの宝庫の和白干潟を、皆で守って行きましょう！

●とき：7月15日（土）14:00～15:30　★雨天中止・小雨決行

●集合：香住ケ丘公園（東区香住ケ丘4丁目）西鉄貝塚線「 唐の原駅 」より徒歩7分
「香椎花園駅」より徒歩7分

●観察場所：唐原川河口～牧ノ鼻海岸

●講師：藤井暁彦 氏（九州環境管理協会）

●定員：先着30名
●参加費：無料　●持ち物：水筒、軍手、筆記具、タオル
●服装：歩きやすい服装、長そで、長ズボン、帽子、長靴
●主催：和白干潟保全のつどい（和白干潟を守る会ほか）
●問い合わせ：TEL：090-8412-2663（山之内）

ハマボウの花

5月7日（日） 第25期 和白干潟の自然観察ガイド講習会「和白干潟の楽しさ再発見の観察会」報告 （今林 眞由美 ）

5月7日は雨で室内のみの講習となりました。7月30日に和白干潟でフィールド講習の予定です。講師の九州大学大学院准教授の清野聡子先生は2005年に次いで、2回目です。和白干潟のように大都市の近郊にありながら、河川域と砂浜やその奥に林がある自然海岸が残っているところは珍しく、和白干潟を守る会によって、保全されていることは素晴らしいそうです。ラムサール条約に登録されると、それが地域の誇りとなり、子供たちの教育に活用されます。「環境修復」により和白海域の流れの回復などの環境改善ができるかもしれません。

楽しい観察会にするには、自然環境の違いで場所によって生きものが違うことや、流れ着いたゴミの観察やゴミ拾い、波や地形、浜にできた波紋などの観察もあります。スマートフォンを活用し拡大して見たり、動画をユーチューブにアップするのもよいでしょう。和白干潟のことをいろいろ発信し、注目してもらうこともできます。地元と一緒に楽しみましょう。などの話しがありました。

講習の後、和白干潟を守る会の活動を見直し、ツイッターやインスタグラムに和白干潟情報をアップしていくことや、福岡市長に「和白干潟のラムサール条約登録」を求める要望書を提出することを決めました。少しずつ実行していきたいと思います。

※和白干潟でのフィールド講習：7月30日（日）15:00～16:00　和白干潟海の広場集合
雨天中止　小雨決行　参加無料で実施予定です。どうぞご参加くださいね!!

クリーン作戦報告

4月22日（土）「全国春のビーチクリーンアップ2023」「2023干潟・湿地を守る日」参加の 和白干潟のクリーン作戦と自然観察

干潟を守る日宣言を読みあげる

4月22日は「全国春のビーチクリーンアップ」と「干潟・湿地を守る日」参加のクリーン作戦でした。始める前に参加者全員で輪になり「2023干潟・湿地を守る日宣言と和白宣言」を読み上げ、全国の干潟の保全への承認を得てから始めました。朝から風が強く、唐原川河口右岸から一輪車やリヤカーで運ぶのは、向かい風の上距離があって大変でした。九産大宗像ゼミ、福岡女子大、博多青松高校の学生の参加もあり、親子で参加の小学3年生の子は最初から最後までとても頑張ってくれました。環境問題に関心を持つ人が増えているのでしょう。参加者20名、回収ゴミ19袋と粗大ごみもありました。参加された皆さまお疲れ様でした。（田辺）

6月11日（日）「ラブアース・クリーンアップ2023」参加の和白干潟クリーン作戦

6月11日「ラブアースクリーンアップ2023」参加のクリーン作戦を実施。和白4区子供会やボーイスカウト福岡23団など58名の参加で、海の広場から唐原川河口までの間を清掃し、17袋のゴミを回収しました。（山之内）

★ 観察会報告（2023年４月～６月）★

（松藤 真理奈）

4月14日(金) 香椎保育所さくら組（年長児）39名と先生8名

バードウォッチング

曇り空でしたが、昼から雨の予報でスケジュールを入れ替えて観察会を始めました。最初に、山本代表が「生き物手袋」を使ってご挨拶。次のバードウォッチングではミヤコドリ・マガモ・オナガガモ・ダイサギが観察できました。望遠鏡を覗くと「かわいい」と歓声があがりました。砂州に行くとコメツキガニの巣穴と砂団子があり、カニ掘りで大喜び。マメコブシガニもいました。沖にはアサリやオキシジミ、きれいな桃色のユウシオガイ。オゴノリ集めの山もできました。最初はおっかなびっくりだった子も、遊ぶ間に楽しんでいるようでした。干潟で輪になり、浄化実験でアサリやウミニナが海をきれいにするお話をし、海の広場で観察した生物の紹介と和白干潟の紙芝居をしました。感想を尋ねると「楽しかった」とたくさん声が上がり、海を守るお約束にも、元気に手を上げて応えてくれました。（今林）

4月30日(日) センスオブネイチャー25名（子ども20名+大人5名）

生きもの観察

雨上がりで気持ち良い、絶好の観察会日和でした。バードウォッチングでは、望遠鏡でチュウシャクシギが素早い動きで餌を採る姿が見られました。「茶色で嘴と足が長いよ」「波がどんどん流れて鳥もたくさん動いてる」と子どもたちも観察。中には望遠鏡の使い方を覚え、1人で鳥を探す子もいました。クロツラヘラサギやマガモも見ることが出来ました。ハママツナの小さな新芽を紹介しながら砂浜を歩くと、カニに出会えます。砂州にはコメツキガニの巣穴がたくさん。スコップで巣穴をほるとコメツキガニが見つかりました。波打ち際に到着し、手でアサリを掘りました。最近では1番の収穫でした。そこから海の広場まではゴミ拾いをして帰りました。最後に、和白干潟の話をして、みなさんも自然を守る人になってほしいと伝えました。自然に対する好奇心旺盛な子どもたちでした。（今林）

6月12日(月) 和白小学校4年生104名と先生5名

観察した生きもの紹介

薄曇りの蒸し暑い日の観察会となりました。子どもたちは小学校から浜辺沿いを歩き、海の広場に到着。山本代表が挨拶をしてバードウォッチングに入りました。渡りが終わって鳥が居ないのではと不安でしたが、クロツラヘラサギやカワウ、ミサゴなどを観察でき、子どもたちが大きく見えると驚いていました。コメツキガニを掘ったり、沖合で30個ほどのアサリを見つけました。干潟には、ボウアオノリ、沖合にはスナジャワンやタマシキゴカイの糞塊や卵塊が確認できました。河口ではたくさんのハクセンシオマネキを観察しました。貝の浄化実験では、その結果に大拍手。和白干潟の役割を学び、お礼の言葉と終わりの挨拶の後、元気に帰って行きました。（山之内）

★和白干潟の自然だより★ （山本 廣子）

ハマヒルガオ （ヒルガオ科）

ハマヒルガオ

初夏の和白干潟の砂浜やアシ原の中には、ハマヒルガオがたくさんツルを伸ばし、ピンクの丸いロート型の花を咲かせています。葉も丸くて可愛い草花です。日本全土で見られるそうですが、和白干潟では奈多の護岸にも這い上り海側に広がっています。砂浜だけでなく砂利道や草地にも広がって、たくましい植物です。大きな群落になっている所では、ピンクの花がたくさん咲いていて、優しい気持ちになります。

オキシジミ （マルスダレガイ科）

オキシジミ

殻長・殻高：ともに５ｃｍ。殻はほぼ円形で厚く、殻表は明るい茶色や紫色や黒いものもあります。大きな貝には白い傷がついているものが多くあります。小さな貝は赤紫色できれいです。内湾の浅瀬から水深２０ｍの砂泥底に生息しているそうです。中身は橙色です。食用になる貝ですが、砂が残り食べるとジャリッとします。和白干潟ではカラスが盛んにオキシジミを捕って食べています。カラスにはオキシジミが分かるようなのです。オキシジミを捕っては護岸や道路まで持って行き、上から落として割って食べています。護岸や道路には、オキシジミの割れた殻がたくさん落ちています。カラスの賢さに感心します。オキシジミは本州から台湾、中国大陸にも生息しているそうです。

イソシギ （シギ科） 全長２０ｃｍ

イソシギ

留鳥（和白干潟では1年中見られる鳥）。磯にいるシギという、そのままの名前のイソシギですが、和白干潟では和白川や唐原川などの河口域、塩浜や奈多の護岸、奈多のクリーク、雁ノ巣海岸など、沿岸部で見られます。腹部の白色が翼の付け根の前で上に食い込んでいることで、他のシギと区別できます。目のまわりに白いアイリングがあります。雌雄同色で、夏羽と冬羽に目立った違いはありません。歩くときには尾を上下に振り、翼を振るわせて低く飛びます。繁殖期にはつがいで行動しますが、繁殖期でない時には1羽でいるようです。日本では沖縄を除き、全国で繁殖しているそうです。和白干潟の入り口でいつも会える可愛い鳥です。

★和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

☆ 3／26「(一般財団法人) 未来2016」様より寄付金をいただきました。
☆ 5／10「和白4区町内会」様より支援金を頂きました。

★ 4月9日 福岡市議会議員選挙候補者に公開アンケートを実施 !!

４年に１度の福岡市議会議員選挙は、４月９日に投開票が行われました。これに先立ち私たちは、東区の１７名の市議会議員選挙候補者に対し、和白干潟の重要性とラムサール条約登録に申請する必要性について公開アンケートを実施いたしました。

3月31日に公開アンケートと結果をホームページにアップしました。回答結果は１７名中５名と少なく、まだまだ無関心であるとの結果となりました。しかし誠実な回答も数件あり、私たちは今後とも、ラムサール条約登録に向けて、活動を続けていく方針です。

★ラムサール条約登録湿地を訪ねて①

ラムサール条約に登録された干潟や湿地は、どのように良くなったり変わったりしたのかを聞いてみました。シリーズです。

≪佐賀県東よか干潟≫

東よか干潟は佐賀市南部、有明海の湾奥部に位置する泥の干潟です。有明海の干満差は最大約６mと日本最大で、干潮時は見渡す限りの広大な干潟が姿を現します。渡り鳥であるシギ・チドリ類の渡来数は日本一を誇り、絶滅危惧種を含む水鳥類の国内有数の中継地・越冬地となっています。また干潟には、ムツゴロウやワラスボ、シオマネキなど、泥干潟特有のユニークな生き物が多く生息しています。

東よか干潟は、2015年５月に国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されました。絶滅危惧種の塩生植物、シチメンソウの国内最大の群生地でもあり、秋には海岸線を真っ赤に染め「海の紅葉」と呼ばれ、多くの観光客が訪れます。

ラムサール条約に登録後は、自然環境保護を目指す諸外国や国内各地からの訪問・交流がさかんになりました。また2021年に東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」が完成。映像を駆使した展示室や、屋上にはパノラマ展望台が設置され、広大な干潟や佐賀平野の田園風景が一望できます。「ひがさす」に隣接する「干潟よか公園」は芝生広場などがあり、家族で楽しめます。干潟一面に日本一を誇る「佐賀海苔」の養殖や、昔から続くムツゴロウの伝統漁法「タカッポ漁」が盛んです。また、農業関係では、世界が認めた干潟として、ブランド米「シギの恩返し」を商品化し販売して、ますます地域一体、官民一体で盛り上がっています。

東よか干潟

（現地視察報告：松田）

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局・維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154（港湾空港局・みなと環境政策課）

＊＊ お 願 い ＊＊

●干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう ！とても危険です。
●干潟や堤防で火気を使うことはやめましょう！（花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと）火災の危険があります。

●傷ついた野鳥を見つけた時　092-513-5611　（福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課）
092-643-3367　（福岡県環境部・自然環境課・野生生物係）

活　動　日　誌

（山之内 芳晴）

●2023年3月

3/3　（金）　干潟通信145号編集会議
3/7　（火）　2022年度冬期シギ・チドリ調査報告書作成
3/9　（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
3/11（土）　山・川・海の流域会議総会参加
3/12（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会 福岡支部）
3/21（火）　和白干潟通信145号編集会議
3/25（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2023年4月

4/2　（日）　2023年度春期シギ・チドリ調査１回目（今津）
4/9　（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会 福岡支部）
4/11（火）　和白干潟通信145号発送会
4/13（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
4/14（金）　香椎保育所さくら組（年長児）の和白干潟自然観察会
4/18（火）　2023年度春期シギ・チドリ調査１回目（博多湾東部）
4/22（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
4/23（日）　2023年度春期シギ・チドリ調査2回目（今津）
4/30（日）　センスオブネイチャーの和白干潟自然観察会

●2023年5月

5/2　（火）　2023年度春期シギ・チドリ調査2回目（博多湾東部）
5/7　（日）　2023年度春期シギ・チドリ調査3回目（今津）
　　和白干潟の自然観察ガイド講習会
5/11（木）　「和白干潟保全のつどい」会議参加
5/14（日）　和白海岸探鳥会（日本野鳥の会 福岡支部）
5/20（土）　2023年度 春期シギ・チドリ調査3回目（博多湾東部）
5/27（土）　定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
5/29（月）　和白干潟通信146号編集会議
5/30（火）　イオン黄色いレシートキャンペーン贈呈式参加

干潟のつぶやき「ウミニナの生息環境を守ってね！」

ウミニはウミニナ科の巻貝で、淡水の影響のある海岸や河口の砂泥や砂礫地などに生息し、干潮時に干潟を這い、デトリタス（生物の死骸や排泄物などが分解されて微粒子状になった有機物）などを食べています。以前は食用にされていたこともありましたが、今はそのようなことは少なく、殻が固くて鳥たちの餌になることもないため、和白干潟にはたくさん生息しています。

そんなウミニナも博多湾では過去にはより広く普通に生息していましたが、現在は生息地が開発により少なくなっているために、環境省のレッドリストや福岡県のレッドデータブックには準絶滅危惧で登録されています。ウミニナ減少の最大の要因は、生息環境の干潟が埋め立てや干拓などで激減したことによるとのことです。干潟の大切さを思い知らされますね。ウミニナの生息環境を守ってね。

ウミニナ

活 動 報 告

（今林 眞由美）

★ 5/30 イオン黄色いレシートキャンペーン 贈呈式に参加

イオンでは毎月11日に「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の１％相当が寄贈されます。5月30日に3年ぶりにキャンペーンの贈呈式が開催され、2名で参加しました。2022年度分のギフトカード贈呈を受け、プリンタインクなどを購入しました。「和白干潟を守る会」の投函ボックスにレシートを入れていただいた多くの皆さまとイオン香椎浜店に感謝いたします。イオン店の黄色いレシートは全国どこで発行されたものでも構いません。和白干潟を守る会に送ってくださると有り難いです。遠くから送って頂いている方、ありがとうございます。（山本）

★ 第１９回 くすだひろこきりえ展「和白干潟のふしぎ」を開催

きりえ展を5/1～5/31に福岡市東区のレストラン「花もも」で開催しました。壁に新作12点を飾りました。下の棚では絵葉書や絵本などの販売や、和白干潟のリーフレット類も配布しました。和白干潟を守る会や野鳥の会、福岡きりえ同好会の方々、中学や高校の同級生、フラダンス、太極拳、うたごえサロン、山の友達など私が関わっている会の方々、新聞記事を見て来られた方など多数見に来て頂きました。遠くは北海道や宮崎からも見に来ていただきました。ありがとうございました。きりえ展開催で、和白干潟の自然の大切さが広まっていく事を願っています。（山本）

★和白干潟と私★10

山本 廣子

1996年には「香港マイポ湿地」を視察し環境教育について学びました。「アースデイ市民国会1996」で和白干潟保全を全国にアピールしました。守る会独自の「環境教育プログラム」による自然観察会を開始し、リーフレット「環境教育シリーズⅠ、Ⅱ」を発行しました。第1回自然観察指導員講習会を開催しました。現在は「自然観察ガイド講習会」と改称しました。これ以降講習会は毎年開催してきました。1999年には「和白干潟通信50号」を発行。2000年に韓国の自然保護グループの案内でナクトンガン河口干潟とウポ湿地保護区を見学し、保全グループと交流しました。2002年には韓国の干潟保全に協力し視察。「日中韓の沿岸生態系保全活動ワークショップ」に参加して、韓国のNGOと交流。日中韓環境保全活動のシンポジウムに参加して白沙場干潟を視察しました。韓国のデパートで和白干潟のきりえ展も開催できました。

2003年に和白干潟が「国指定鳥獣保護区」になり、2004年に和白干潟が環境省のラムサール条約登録湿地の候補地に選ばれました。和白干潟の保全活動が20年くらい続くと、和白干潟通信を配っていても「お疲れさま」と言われるように変わってきました。干潟通信を読んで入会する人も出てきて、継続した活動により信認されるようになってきました。長い活動の中で、多くのすばらしい仲間との出会いや別れがありました。和白干潟を守る会の活動に関わった方々が「和白干潟を守る会」を作ってきたのだと思います。遠く転居された方も、引き続き会員として支援してくださっている方も多く、ネットワークを作っているJAWAN（日本湿地ネットワーク）の総会などで東京に私が行った時には、一緒に協力いただいています。和白干潟まつりの時などには、関東方面から参加してくださる会員の方もおられます。

2002.日中韓環境保全活動

守る会問い合わせ窓口

★ホームページ：http://wajirohigata.sakura.ne.jp/

◎入会／ 観察会（申込等）　山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
◎クリーン作戦　田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
◎広報／調査／定例会議　山本　廣子　Tel/Fax. 092-606-0012
◎干潟まつり　松尾　満子　Tel. 090-9651-8489

★お知らせコーナー★

（田辺 スミ子）

★国際 ビーチクリーンアップ参加
ゴミデータ調査★

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のごみを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください！

- 日時：９月２３日（土）１５時～１７時
- 集合：和白干潟・海の広場
- 主催：和白干潟を守る会
- 問合わせ：090-1346-0460（田辺）

‘和白干潟のエコチャレンジ
“アオサのお掃除大作戦”

- 日時： 9/24(日)　10時 ～12時
- 集合：和白干潟・海の広場
- 主催：和白干潟保全のつどい（守る会ほか）
- 問合わせ：090-8412-2663(山之内)

唐の原川お掃除し隊

- 日時： 10/7(土)　10時 ～12時
- 主催：山・川・海の流域会議（守る会ほか）
- 問合わせ：090-2397-1424(松田)

★ 定例スケジュール★

●定例会議（7/22、8/26、9/23）

毎月第４土曜日12時～14時　守る会事務所にて開催。
★和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待ってます！

●クリーン作戦と自然観察（7/22、8/26、9/23）

毎月第４土曜日15時～17時　和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利　駐車場なし

●和白海岸探鳥会（8/13、9/10、10/8）

毎月 第２日曜日　９時～12時 ＪＲ和白駅前の 和白公園集合
参加費：野鳥の会会員100円、一般 300円、中学生以下 無料

★会員募集中
年会費：個人 2,000円
　　団体 5,000円
★カンパのお願い
郵便振替 01720 - 4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★
和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。
参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち（その102）

カラシラサギ（サギ科 Swinhoe's Egret）唐白鷺［全長６８㎝］

環境省 準絶滅危惧　　福岡県 絶滅危惧ⅠB類

写真撮影：三宅 僚

カラシラサギは和白干潟では旅鳥として春に１～2羽が訪れていましたが、最近はたまにしか訪れていません。コサギよりやや大きいくらいで、よく似ています。くちばしはコサギが黒で、カラシラサギが黄色です。夏羽の冠羽はコサギが2本、カラシラサギは20本くらいでボサボサ頭です。目先が黄緑色で目がつりあがった感じがします。行動はすばしっこくて、走り回って魚を追いかけます。身体を傾けて走り回るので、カラシラサギだとすぐにわかります。以前、牧ノ鼻の奥の樹林帯で繁殖しているようだと言われていましたが、また来てほしいですね。（山本 廣子）

【編　　集】松田 元・今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子
《カット》くすだ ひろこ　　★次号は2023年10月に発行予定★

【編集後記】夏の和白干潟は、生き物たちが活発に動き回っています。コメツキガニは人の気配を感じると一斉に巣穴に入り、ウミニナは日をよけて同じ方向へ移動します。アシ原は爽やかな緑一面になります。和白干潟の生命の息吹を多くの人に感じてほしいですね。（田辺）

◎この干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて作成しました。